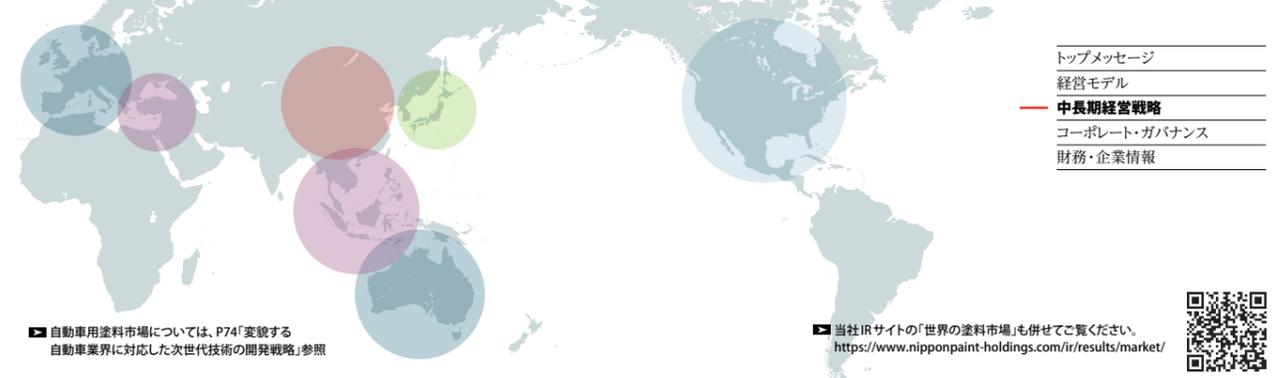


地域特性を有し、中長期的な成長ポテンシャルに富んだ世界の塗料市場



中国 — 建築用塗料市場

▶ 当社グループにおける具体的な対応や取り組み、成長戦略は、P61「塗り替え市場が急拡大する中国での成長戦略」参照

中長期的な成長ポテンシャルは不変

中国の塗料需要は都市化の進展とともに拡大しており、都市化率は2016年の50%程度から2021年には60%超~70%程度まで上昇し、今後も緩やかに都市化が進むと予想されています(図1)。また、1人当たりの塗料消費量は先進国の1/3程度にとどまるなど、今後も中産階級の拡大に伴う可処分所得の増加により、「GDP成長+α」での持続的成長が見込まれています(図2)。

急速に拡大する塗り替え需要

中国では1998年の住宅改革を皮切りに不動産市場が活性化し、現在に至るまで膨大な民間住宅が供給されてきました。そして今、1990年代後半から大規模に供給されてきた民間住宅が相次いで老朽化の時期を迎えており、それに伴う塗り替え需要が急速に拡大しています(図3)。こうした住宅市場の状況に対して、中国政府は2020年、全国3万9,000ヵ所、700万世帯の老朽化した住宅団地(老旧小区)の改修・改良・再開発に着手することを発表するとともに、2000年以前に建設された住

宅団地の改修を2025年末までに終えるという目標を打ち出しています。住民に対しては、自宅内部のリフォームや家電の買い替えを推奨しています。

このような中古住宅の現状と政府の後押しを背景に、今後も塗り替え需要は継続的に拡大していくと予想されています。なお、当社推計では、中国全土の住宅用塗料需要のうち、中古住宅の塗り替え向けが約1/3、新築住宅向けが約2/3を占めており、大都市では住宅の急速な老朽化により、既に中古住宅向けと新築住宅向けの需要がほぼ同程度となっています。

図1 都市化率の推移 (%)

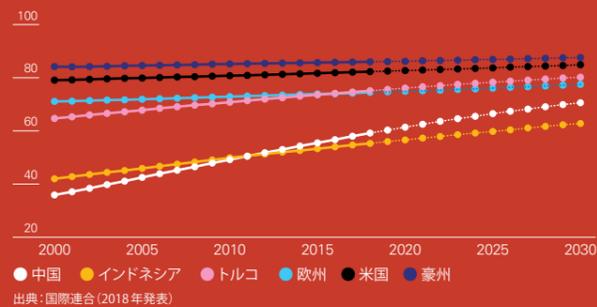


図2 GDP成長率の推移 (%)

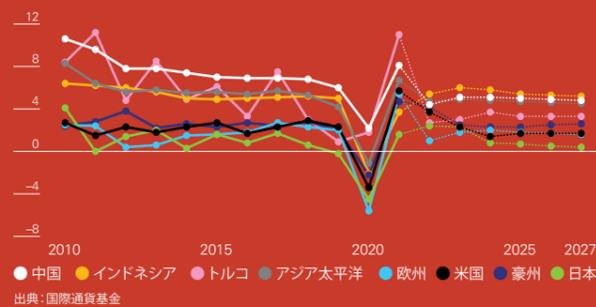
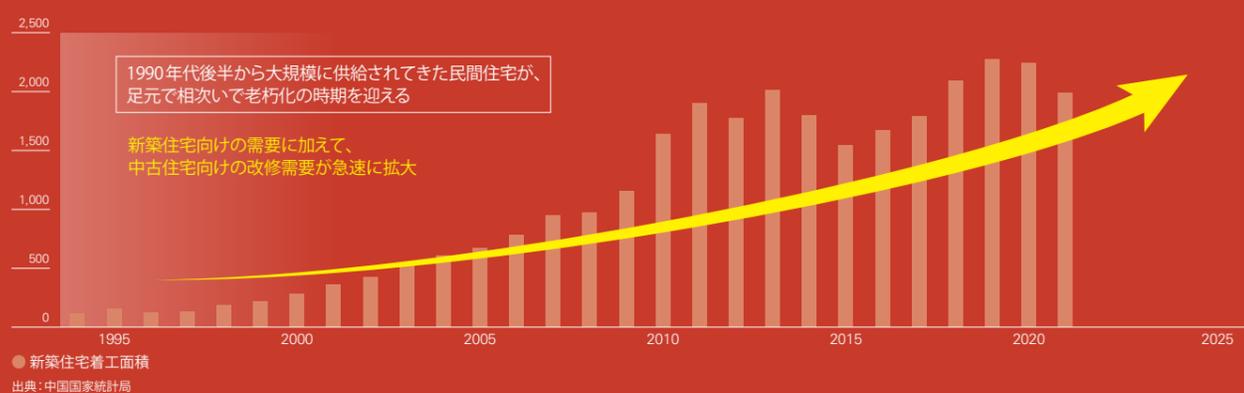


図3 中国の新築住宅着工面積 (100万m²)



高成長国(インドネシア・トルコ) — 建築用塗料市場

▶ 当社グループにおける具体的な対応や取り組み、成長戦略は、P65「高成長国(インドネシア・トルコ)での成長戦略」参照

GDP成長や都市化、政策などを追い風とした高成長が続く

インドネシア、トルコの都市化率はそれぞれ、2015年の53%、74%から、2021年には57%、77%に上昇し、2030年にはさらに63%、80%まで上昇が予想されるなど、中国と同様に、今後のさらなる都市化の進展が見込まれています(図1)。

インドネシアでは、首都移転に伴うインフラ投資をはじめとする各種政策を追い風として、さらなる塗料需要の拡大が期待されています。トルコでは、通貨安を背景とした高いインフレにもかかわらず、今後も市場

成長が引き続き見込まれるほか、GDP成長に伴うリノベーションや補修などの需要が増加すると予想されています(図2)。両国とも可処分所得の増加が続いており

(図4・図5)、従来のエコノミー・スタンダード市場のみならず、プレミアム市場の拡大が見込まれるほか、1人当たりの塗料購入額の上昇が期待されています。

図4 インドネシアの所得状況

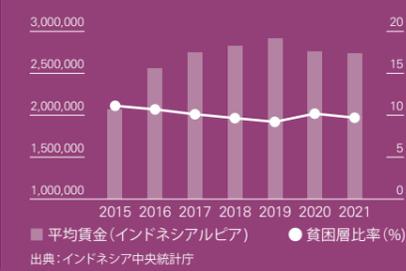


図5 トルコの世帯当たり平均可処分所得



成熟国(豪州・欧州) — 建築用塗料市場

▶ 当社グループにおける具体的な対応や取り組み、成長戦略は、P67「成熟市場(豪州・ニュージーランド・バアニューギニア・欧州)における事業戦略」参照

住宅市場の回復とGDP成長を背景に市場成長を見込む

豪州では、堅調な人口成長が継続しています(図6)。

住宅着工件数は豪州、欧州ともに、2020年に新型コロナウイルスの影響から落ち込んだものの、足元では供給サイドの制約による混乱も、政府刺激策により回復傾向にあります(図7)。

一般的に、成熟国では既存住宅の補修・改修が中心となるため、建築用塗料の需要は新築着工件数よりもGDP成長と相関性が高い傾向があります。豪州、欧州でも引き続きGDP成長が続くと予想(図2)されることから、建築用塗料市場も中期的に底堅く推移すると見込んでいます。

図6 人口推移 (億人)

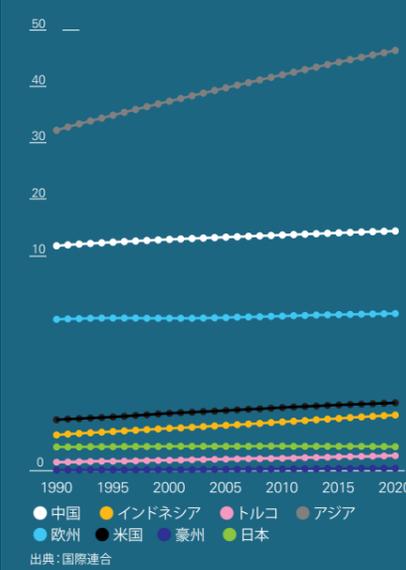


図7 豪州・欧州の建築着工状況

